

【別添2】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価		岐阜県立関高等学校	学校番号	35
1 学校教育目標	知・徳・体に調和のとれた豊かな人間性を持ち、「高い志」とグローバルな視野をもって、将来、地域社会の発展のために貢献できる有為な担い手を育成する			
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・高校時代に確かな学力を身につけ、自分の将来を設計できる生徒 (日々錬磨) ・課題解決力やコミュニケーション力を身につけ、どんな困難にも立ち向かえる生徒 (進取の気概) ・豊かな人間性を身につけ、人の立場を理解し、思いやりある行動がとれる生徒 (至誠の心) ・グローバル社会にふさわしい素養を身につけ、多文化共生をめざすことができる生徒 (グローバルな視野) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成や授業改善により「思考力」「判断力」「表現力」「コミュニケーション力」を伸ばし、多様化する大学入試制度等に対応した進路指導を実現 (Study hard!) ・生徒会活動・部活動及び学校行事への主体的参加を促し、集団における個の役割を自覚させるとともに、個を活かす集団づくりを支援 (Work hard!) ・学校生活の中で、互いを尊重できる人間関係の構築と、感謝の気持ちを大切に行動の具現化を図り、生徒の心身の健康保持のため、家庭との連携を強化 (Be polite!) ・総合的な探究の時間で取り組むSDGsの実現に向けた課題解決型研究を通して、グローバルな視野をもち、多分野で活躍できるひとを育成 (Be global!) 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校時代に基礎学力を向上させ、卒業後は大学等に進み、より深く学びたいと考えている生徒 ・自ら課題を発見し、その課題を解決しようという意欲にあふれた生徒 ・学ぶこと・知ることの楽しさを見つけたいと強く願う生徒 	
3 現状の分析	<p>【教務部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スクールポリシー、教育目標に共感し、多くの生徒が満足感をもっている ▲学校行事への満足度は高い一方で、教科指導における十分な成果があがっていない ▲国公立大学進学者が減少傾向にあり、また、より選抜性の高い上位学校への進学に消極的 <p>【生徒指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒との面談や各アンケートからの情報収集、学年・生徒指導・教育相談との連携による組織対応や情報共有など積極的な生徒指導を行い、問題の早期発見・早期対応に繋げている ▲生徒が抱える問題は多岐にわたり、特に不登校傾向とされる30日以上欠席過多の生徒が増えており、より一層職員間の連携や情報共有など個に寄り添った対応が組織として必要になってく 			

	<p>【教育相談部】 ○生徒の心の自立支援のための寄り添い・支援ができています。 （早期発見・早期対処するための組織的対応、職員間の情報共有と共通理解、SC・外部機関への繋ぎと連携。） ▲家庭への情報発信が定期的・効果的になされておらず、家庭との連携（保護者の悩みや相談への対処）が不十分な場面があった</p> <p>【進路指導部】 ○入学時から国公立大学を志望する割合は約90%であり、進学意識は高い ▲幅広い生徒層が入学しており、上位層と下位層の乖離が年々広がる傾向にある</p> <p>【特別活動部】 ○ほとんどの生徒が、文化祭・体育祭・球技大会など生徒が主体となって行う行事に熱心に取り組んでいる ○多くの生徒が部活動にも意欲的に取り組む中で集団におけるこの役割を自覚し、よき人間関係を構築することができた</p> <p>【保健厚生部】 ○アンケート結果により、防災安全・健康管理については、生徒・保護者共に高い評価を得ている。特に、地震や台風などの対応については、3回以上の命を守る訓練を行うなど、分掌としても丁寧に計画を立て、敏速に実行していることが結果となったと思われる</p> <p>【学年会】 ○生徒の進路意識の向上を図ることができている。生徒が学習の必要性を正しく理解し、学習に落ち着いて取り組む姿勢が身に付いている。総合的な探究の時間などを通して、自ら課題を発見しそれを解決しようとする能力が身に付いている</p>
<p>4 学校の抱える課題</p>	<p>【教務部】 ・生徒の可能性を最大化させるような積極的な指導が不足している ・スタッフが変わっても、探究活動を継続させていけるような環境整備に不安がある ・協働的な学び、ICT活用などを行っているが、その実態や成果が保護者、地域に伝わっていない</p> <p>【生徒指導部】 ・様々な事案対応がある中で、家庭との連携はもちろんのこと警察や外部機関との連携をより一層図っていくことが重要である</p> <p>【教育相談部】 ・生徒間の良好な人間関係構築・コミュニケーション不足に対する支援 ・増加する進路実現・学業不振に係る不安・悩みへの寄り添い ・家庭との連携・家庭への情報発信</p> <p>【進路指導部】 ・地区上位層の岐阜地区および私立高校への流出 ・土曜講座開講における教員間のコンセンサス ・難関大学を目指す生徒の育成 ・学校推薦型選抜や総合型選抜における志望理由書や小論文の指導の在り方</p> <p>【特別活動部】 ・感染症や熱中症対策を施しながら、どのような活動を行っていくことができるかを見極める ・勉強と部活動の両立を図りながら、充実した活動を行う</p> <p>【保健厚生部】 ・学校評価アンケートの「施設・設備は、学習の面でほぼ満足できる」という項目の評価が、昨年よりも低くなっている。老朽化していても清潔な校内を保つことができよう、生徒会や委員会の生徒の意見を集めて更に検討したい</p>

5 今年度の具体的な重点目標		(1) 生徒一人ひとりのコミュニケーション能力や課題解決能力を育成する (2) 国際的な素養を身に付け、多様な価値観を認めあえる人材を育成する (3) 確かな学力とともに、勤労観や職業観を涵養し、自分の将来を設計できる能力を育成する				
年 度 目 標		年 度 末 (途中) 評 価				
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
1 「勉強する関高生」 “Study hard!”	①国際的な、あるいは地域のリーダー養成に実績のある難関大学への進学を可能とする指導を充実させます	① 国公立大学合格率50%以上、難関国公立大学合格20名以上	【教務部】 ・教務部・学年部で連携しての科目・コース選択支援 【進路指導部】 ・共通テストにおいて、生徒は概ね実力を発揮することができた	A B	○生徒の進路希望、実態に応じた選択をすることができた ○早い段階から生徒の意識を高めることができた	B
	②キャリアプランニング能力を高めるために進路行事を幅広く実施し、生徒が自己実現できる力を養成します。また、特色ある教育課程のもと、生徒の多様な進路希望実現のための学力向上を図ります	② 1,2年次生の進研模試偏差値55以上150名、65以上50名、3年次生の全統模試偏差値55以上100名、65以上30名	【教務部】 ・学習支援デジタルコンテンツの整備 【進路指導部】 ・全学年希望者対象の社会連携セミナー「さくら塾」や進路講演会、進路説明会、小論文講座、志望理由書講座、難関大入試対策講座などを実施。	B B	○生徒自身の到達度、課題意識に応じた教材選択、活用ができた ▲一部の教科、教員の活動に止まっている ○生徒の志望や学力層に応じた進路行事を行い、キャリアプランニングを意識した指導を継続する ▲1年模試結果は目標に達したが、2年は11月の模試にかけて中間層の偏差値が落ちた。進路指導部および各教科で分析、すぐに朝補習等の対策を講じた	
	③大学入試の多様化や新学習指導要領に対応した、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を伸ばすための授業改善に努め、主体的に学習に取り組む姿勢を養います	③ 校内生徒アンケートの該当箇所に関する肯定的評価80%以上	【教務部】 ・授業研究、評価の実施 ・合理的な考査受験システムの設計 【進路指導部】 ・校内生徒アンケート結果：生徒に適	B B	○課題探究型授業へのシフトが進行している ▲数値に表れない学習効果や、授業実践の発信が不十分 ○ほとんどの授業でICT機器の活用が一般化している ○客観性・平等性を担保した実施ができた ▲進路に関する校内生徒アンケートはおおむね達成し	

			<p>した進路情報を示し生徒の可能性を引き出そうとしている(84.4%)、生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導ができています(79.2%)</p> <p>【図書視聴覚部】 ・読書活動の推進と図書館蔵書の充実「新書を読もう」や「みんなde読書」など、生徒の生涯善き読書人の姿勢をはぐくみ、教養を深める読書活動を行った。また、図書館の選書にあたっては新書や専門書の充実に努めた</p>	A	<p>だが、前年度と比較して肯定的意見は7%減少した。大学入試検討会等への参加や拡大学年会を通じて、教員の進学指導力を向上させる</p> <p>○進路だよりを発行し、進路意識の高揚を図るとともに、多様化する大学入試に関する情報を生徒及び保護者へ提供できた</p> <p>○予備校等の難関大学の入試問題研究会などへの教員の参加を増やすことができ教科指導力の向上を図った</p>
2 「マナーの良い関高生」 “Be polite!”	①教職員の声かけと生徒会活動が一体となることで、「時間」「約束」を守り、「挨拶」「感謝」を大切にしたい行動の具現化を図ります	①遅刻数、欠席数、携帯使用マナー違反の減少傾向を維持	<p>【生徒指導部】 ・生徒が主体的に判断・行動し積極的に自己を生かして行動できるよう、日常的な教職員の声かけや生徒理解に努める指導を行うことができた。MSリーダーズや風紀委員による交通安全啓発活動やヘルメット着用推進活動を行った。昨年から比べると各学年欠席が大幅に増加したことは残念である</p>	B	<p>○身だしなみに関しては学校評価アンケートでも高校生としてふさわしいものであると、高い評価を得た</p> <p>○様々な活動から学びを推進し豊かな人間性を育み、自己肯定感を高める。MSリーダーズや風紀委員が市や警察、地区交通安全協会と連携して啓発活動やヘルメット着用推進活動を行った</p> <p>▲各学年で欠席が大幅に増加した。勉強や進路、対人関係や家庭環境など理由は多岐にわたり一人一人に寄り添った指導や教育相談的な支援、家庭との連携をより一層図っていく必要がある</p>

	<p>②安全・安心な学校生活を送るために、生徒の心身の健康を支援する環境づくりと家庭との密な連携をします</p>	<p>②保健室、教育相談だよりを生徒・保護者あてに月1回程度発行。いじめアンケート・いじめ防止等対策検討会議を年3回実施。心のアンケートを毎月1回実施</p>	<p>【生徒指導部】 ・いじめアンケートを3回、いじめ防止等対策検討会議を4回、教育相談会議を週一回実施した。情報収集を迅速に行うことができた</p> <p>【教育相談部】 ・「心のアンケート」を年間5回実施し、生徒個々の実態把握・理解に努めた。不安や悩みを抱える生徒・保護者に対してはスクールカウンセリングにも繋げた。外部機関との連携を図り、学校全体で組織的に対応した。教育相談だよりは、計画通り発行できなかった</p> <p>【保健厚生部】 ・保健委員が毎月テーマを決め、保健だよりと掲示物を作成し、保健教育を行った</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>○生徒との面談や教職員間の連携・情報共有を密にし早期発見・早期対応ならびに組織での対応に努め家庭や外部機関との連携を図った</p> <p>○生徒の心の自立支援 ・早期発見・早期対応するための組織的対応 ・職員間の情報共有と共通理解 ・SC、外部機関への繋ぎ ▲生徒への情報発信 ▲家庭(保護者)への情報発信・情報共有</p> <p>○毎月発行することができた ○教室掲示用も1部作成して、必要時にはHRTに指導いただいた</p>
	<p>③学校の教職員、生徒、保護者、地域の方々の連携を深め、教育活動を展開します。また、ホームページ、広報誌、回覧板等を活用して、地域に情報を発信します</p>	<p>③PTA役員会、保護者懇談会、地域の声によって評価</p>	<p>【保健厚生部】 ・行事毎に関高ニューズレターを発行し、ホームページに掲載した</p> <p>【渉外部】 ・PTA総会・学級懇談会を分散参集にて実施。総会資料のHP掲載 ・文化祭PTAバザー「SDGS11-6ニコニコの種とお水(お菓子の詰め合わせと飲み物の配布)」を実施。保護者と生徒のコミュニケーションを図る機会となり、保護者の学校理解につながった ・関高PTフォーラムは、保護者・生徒と共に参加できる講演「テーマ」を設定した</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>○保護者の学校に対する意見や要望を吸い上げるとともに保護者と学校、生徒が直接かかわる活動を充実させることができた ▲PTフォーラムアンケートによると講演内容は好評だったが、今後は多くの方に参加していただけるような仕組みの構築が必要である</p>
<p>3「汗を流す関高生」 “Work hard!”</p>	<p>①生徒が生徒会活動やFRHに関わる活動を経験し、様々な行事を主体的に運営できるよう、支援をします</p>	<p>①校内生徒アンケート「協力して取組む」や「お互い認め合う」といった項目の肯定的評価80%以上</p>	<p>【特別活動部】 ・生徒が主体となって、行事が実施されるよう、各委員会レベルから生徒の意見をくみ上げ活動にあたることのできた。コロナ禍で集団行動をあまり行</p>	<p>A</p>	<p>○関高祭では、生徒が主体となり、応援活動やクラス活動・委員会活動などをおこない、行事に生き生きとした姿で行事に参加する生</p>

			<p>ってきていない生徒のことを配慮し、アフターコロナの活動の在り方を考え行事の運営に当たった</p> <p>【図書視聴覚部】 ・図書委員会の活動の活性化。図書館だよりなどの発行、カウンター当番、読書フェアなど、活発な委員会活動が行った。図書だよりは、岐阜県教育委員会賞を受賞した</p>	A	<p>徒の姿が見られた。事後に行ったアンケートでも大変高い満足度が得られた ▲今後も、学校行事等において生徒が主体的に取り組める環境づくりに努める</p>
	②部活動への積極的な参加を促し、集団における個の役割を自覚させると同時に、個を活かす集団のあり方を学び、協調性と個性を尊重する態度を養います	②部活動の登録率85%以上	<p>【特別活動部】 ・新入生オリエンテーションの一環として、4月に部活動紹介を行い、新入生の部活動加入を促した。限られた活動時間の中でも有意義な活動となるように、時間の使い方や活動内容を検討し、また、部員同士が互いの立場や考えを尊重しつつ、みんなが生き生きと活動できるような集団となるよう、各部活動において指導した</p>	A	<p>○部活動への、積極的な参加が見受けられる、東海大会、全国大会に出場を果たした部も複数あった ▲生徒が生き生きと活動できる場となるよう、部活動予算の分配などについても見直し、検討を重ねていく必要がある</p>
	③F R H活動や異校種間交流の機会を通じて、地元の様々な催しに参画し、積極的に校外で関高生が活躍する機会をつくりま	③校外活動で実績を挙げた生徒数のべ300名	<p>【研究推進部】 ・継続的に校外活動に参加する生徒は各学年1割を超えている。さらに外部と連携した各種発表会や交流イベント、マルシェには、他校・他地域からの参加も増えつつあり、交流の機会も多様化している</p>	A	<p>○地域の社会人と生徒が協働する活動が、安定的に実施できるようになった</p>
4「グローバルな関高生」 “Be global!”	①1年次で地域の活性化に取り組み、2年次でSDGsを扱う課題解決型研究において、生徒の視野を大きく広げる支援をします	①各学年のHR・学年発表会の実施。全校発表会では2年次生はAll Englishで発表	<p>【図書視聴覚部】 ・探究活動を支援する蔵書の充実、研究推進部と連携し、生徒が取り組む探究活動に関わる蔵書を増やし、特設コーナーを設けた</p> <p>【研究推進部・1年学年会】 ・個人で課題を設定し、夏季休業中の関ジモト大学の参加をもとに企業が行っている取り組みについて学んだ。その後、自らの提案や課題解決法を模索し、レポートにまとめる活動をした ・10/10, 17, 24に、各HRで経過報告</p>	A A	<p>○生徒はSDGsと興味・関心を結びつけて個人研究テーマを設定し、身近な問題について考察を深めることができた ▲数年前まで行われていたフィールドなどが、コロナ</p>

		<p>会、11/14にクラス予選会を、12/12に学年選考会を実施。代表発表者は3/15にむけてのプレゼン準備、他の生徒はポスター作成の活動を実施中</p> <p>【2年学年会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR内で共通する課題意識を持つ生徒ごとにグルーピングし、探究活動を展開した。ジモト大学やフィールドワークに参加し、実際に働く人達から意見を聞くことで、地域に根付きかつ世界的な視野に立ったものの見方や考え方を学ぶことができた。出口の活動として、オールイングリッシュによるポスター及びプレゼンテーションの作成を行う 	A	<p>禍から実施されていないので、インターネットによる調査にとどまっている</p>
②語学の4技能を高め、グローバルに活躍できる人材を育成し、さらにその力を活かす機会として国内外の研修や地域の催しへの参加を促します	②語学の力を活かす活動の参加者の増加	<p>【英語科・1年学年会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃より授業で扱う題材を基にして、自分の考えを発信する機会を設けている。input-orientedのみならず、output-orientedも意識して授業構成を工夫し、パフォーマンステストで発信能力（話すこと、書くこと）を評価することで、生徒に意識付けをし続けている。 ・英語スピーチコンテスト、英語プレゼンテーション大会への参加を促し、特に12/16に開催された英語プレゼンテーション大会では優秀賞を獲得した <p>【2年学年会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種スピーチ、プレゼンテーションコンテストやフィリピンオンライン留学などに参加することで、積極的にその言語能力を発揮することができた。また、一部生徒は優秀な成績を収めることができた 	A A	<p>○パフォーマンステストで各単元の出口を設定したことで波及効果をもたらし、受信能力（聞くこと、読むこと）の育成にもつなげることができた</p> <p>▲国内外の研修や地域の催しへの参加に対して心理的ハードルを下げる呼びかけが必要だと思われる</p>
③地域の方々、卒業生、保護者等、多様な人材を活かした講演会や交流会を実施します。また広報活動を活性化させ、講演会・交流会を地域の方々に開放します	③各講演会・交流会のオンライン参加を含めた外部参加者100名	<p>【研究推進部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策に留意し、講演会やセミナーなどの各種イベントを行った <p>【保健厚生部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産婦人科医による保健講話を実施し、正しい知識と人権意識の向上に努めた 	A A	<p>○参加者による祖次応答が活発に行われた</p>

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月1日

【評価1】

・授業を参観し、学校運営協議会で様々な取組を聞いている限り、少子化のなかで関高校は、真摯に努力していると思う

・必ずしも国公立大学への進学に固執することなく、現在の生徒のニーズに応じた形で改革し、そのなかで入学時より高い目標を生徒自身が設定できるように工夫されている

・大学も少子化に合わせ国公立大学も含め、選別方法を大きく変えてきているのが現状であることに照らし、コロナ禍で若干停滞したと思われるフィールドワークをより盛んにし、県内で模範となる探究活動をさらに展開してもらえればと強く願っています

・教職員・事務職員のいずれも貴校は、本当に努力していると思います。ぜひ、地域でそれを評価して頂けるよう、さらに広報活動等を積極的に行い、これからも必要とされ続けられる高等学校であり続けるよう宜しくお願いします

【評価2】

・運営協議会に参加してまだ数年だが、良い変化を感じる。報告の中で、学校のことを包み隠さずオープン化しているので、今年は上手くいっていないけど来年は改善したいという内容の話を何回か聞くことがあった。失敗を認め、それを改善しようという発想は良いと思う

・生徒が将来的にどんな生徒になって欲しいかということだが、社会人の目線で言うと、どんな苦難や壁にぶち当たっても、立ち直れる人物かということが重要である。失敗しても立ち直れるような、困難を乗り越えていく精神を身に付ける指導が大切ではないか

【評価3】

・関高校では多岐に渡った活動を、高校3年間で実践できるように教員が生徒に尽力している。高校生活において生徒は丁寧扱われている

・防災関係について、年末に北陸地方を中心に大きな地震があった。学校の防災活動は避難訓練などだと思うが、より具体的なことを意識した訓練を実施すると良い

【評価4】

・近隣地域の方々に、関高校の良さ、魅力を如何に伝えていくかの工夫が必要であり、発信して欲しい

・保護者の立場から言うと、不安定だった自分の子どもが文化祭などを通して人との関りを上手くやっていけるようになり、安定した姿を見て嬉しかった

・探究活動を通して、新しい自分の価値を見つけられるようになって喜ばしい

・文化祭バザー等を通して、関高生のマナーの良さを感じた。

13 来年度に向けての改善方策案

【教務部】

・生徒の実態・ニーズに応じた、教育課程の見直し

・教育課程外の教育活動の精選と、それに伴う日課の再編成

・到達度、あるいは多様なライフスタイルに応じた、学習支援態勢の整備

・学校の魅力、成果を広く膾炙する広報活動

【生徒指導部】

・生徒自らが主体的に行動し自己肯定感や達成感を高められ、地域や社会とも積極的に関わり心豊かな人間性を育むマナー指導やモラル指導を推進する

・生徒が抱える問題や悩みは多岐にわたり、家庭や地域、警察や外部機関との連携がより必要である

【教育相談部】

○問題に結びつく「芽」の早期発見・早期対応への組織的アプローチ

・職員間の情報共有・共通理解

→学年主任・HRT・分掌との連携の下、迅速な対処に迎える体制づくり

・S Cの効果的活用

・教育相談週間（年2回）の効果的設定

・職員研修会の実施→教員の資質向上・スキルアップ

・外部機関との連携

○家庭との連携

・保護者への情報発信

【進路指導部】

・進学指導重点事業の指定を受けて、受験に対応した教員の教科指導力および小論文指導向上を目指し、予備校講師による指導方法を各教員が学ぶ研修を設ける

・令和7年度大学入学共通テストに向けた教科「情報Ⅰ」の研究

・探究活動を生かして国公立大学の学校推薦型および総合型選抜合格者を増やすための分析、研究

【特別活動部】

・感染症や毎年の異常気象また近年の働き方改革などの影響により、行事の縮小や見直しが求められる中で、生徒の思いや主体性を尊重した行事の計画・運営を進めていく

・来年度岐阜県で開催される全国総文祭についての、PR活動や、その大会運営ボランティアなどにも積極的に参加するように案内する

【保健厚生部】

・清掃については、細かいチェック項目による清掃点検を厚生委員により複数回行ない、校内衛生の向上について改めて考える機会をもつことが必要である。ただし、やりっぱなしにするのではなく、点検方法や実施時期についても更に詰めていきたい

・正しい知識と方法により、学級閉鎖にならないように様々な感染症対策を継続していきたい

【渉外部】

・ P T A が主催する事業に関しては、学校のことを他の保護者に伝えることが大切であると感じた

・ P T A 主催事業について、目的等を P T A 役員会で共有し、内容や実施方法の見直しを図りながら、持続可能で魅力的な P T A 活動の在り方を検討していく必要がある。

・ 4 年続けて中止した「保護者向け進路研修会」は、役員会で協議の上、P T A 費の公平な運用と教職員の勤務の適正化等の観点から来年度は廃止とする

・ 関高 P T フォーラムは、より多くの保護者が学校行事に参加できる機会となるよう保護者のニーズに沿うテーマの設定、他分掌との連携、効果的な広報等、企画運営を工夫する

【1年学年会】スタディサプリの活用を計画的に指導する必要がある。生徒が自らスタディサプリアを活用し、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる必要がある

【3年学年会】

・ 生徒の人間関係や進路目標などで悩み苦しむ生徒が増加している。悩みや苦しみを解消したり減らしたりしていくことができるように、生徒・教員・保護者間での緊密な連携を進め、生徒の悩みに早期から寄り添って対応する姿勢を堅持していく

・ 身だしなみや挨拶、掃除といった当たり前のことをしっかりと行い、校外の活動に積極的に参加し知見を広げて、人間的成長を促していく